

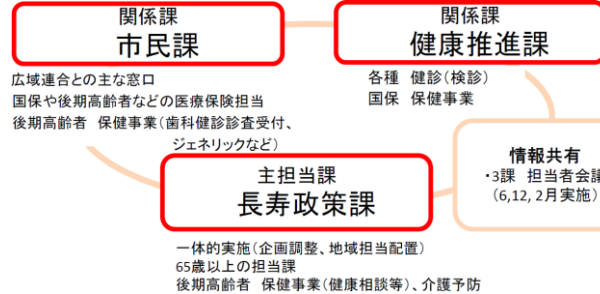
高知県宿毛市

—どんな状況になっても、自分で選んで、社会参加
(仕事、趣味、スポーツ、ボランティア、畑など)ができる市を目指して—

市の概況(令和4年4月1時点)

人口	19,391人
高齢化率	39.6%
後期被保険者数	3,910人
日常生活圏域数	1圏域

庁内連携・実施体制



人員体制

【長寿政策課予防係】

企画調整担当: 保健師 1名(専任)
地域担当: 会計年度任用職員
理学療法士 1名(専任)
事務担当: 会計年度任用職員 1名(専任)
地域担当(兼務): 保健師 1名、看護師 1名
会計年度任用職員 看護師 1名

【健康推進課】

地域担当(兼務): 管理栄養士 1名
【当市所属以外】
看護師 3名 歯科衛生士 2名 理学療法士 1名

SUKUMO CITY.
宿毛市

桜の里、だるま夕日が見える街

取組の経緯

- 宿毛市健康増進計画では、「生涯を通じた健康づくり」を基本理念とし、住み慣れた地域でいつまでもいきいきと健やかに暮らす市民が増えることを目指し、家庭・地域・学校・職場・行政をはじめ関係機関や団体が支える体制を構築している。この体制の中、高齢者を取り巻く状況や今後の推移等のデータより、フレイル予防対策の必要性について庁内関係各課で理解を深めた。
- 庁内における高齢者支援の現状から、年齢による切れ目のない保健事業を効果的に図るためには関係各課の協働、連携の必要性を感じた。
- 令和元年度～令和2年度には長寿政策課、健康推進課、市民課で協議を重ね、開始年度及び主担当課を決定。令和3年度の秋以降には、高知県後期高齢者医療広域連合を交えて頻回に協議・勉強会等を行い、令和4年度事業開始となった。

企画調整・関係機関との連携

- **企画調整**
医療費分析により健康状態不明者の割合が県内8位であったことから、その対策に重点を置いた。また、健診受診者の分析により身体・口腔・認知機能低下、低栄養がみられたことから、フレイル予防対策を実施することとした。
- **庁内連携**
長寿政策課、健康推進課、市民課が連携し、年に3回程度庁内連絡会及び検討会を開催した。
- **医療関係団体等との連携**
本事業推進のために作成された県の資料を活用し、市医師会にて説明を行った。また、企画段階から当市所属以外の医療専門職も参画し、研修の機会を提供しながら、目的等を共有している。

ハイレスクアプローチ

- **健康状態不明者対策**
 - ・KDBシステムを活用し、2年間健診・医療・介護の受診がない方を抽出した。抽出段階で、地域包括支援センターを含む関係各課で対象者の経済的問題、精神面、医療等への考え方等を確認後、地域担当の保健師等がアプローチを開始した。
 - ・後期高齢者の質問票送付後、返信状況を把握し、回答内容に合わせて訪問等、必要な保健指導を実施した。
 - ・日頃から住民と近い関係を築いている強みを生かし、対象者全員の健康状態及び生活状況を概ねつかむことができた。
 - ・必要なサービスへつながらなかった方は、精神疾患、経済的困窮、身寄りがいないなどの理由があり、継続した支援を行っている。

ポピュレーションアプローチ

- **フレイル予防**
 - ・通いの場にて体力測定、身体計測を実施し、健診等受診の動機付けに活用した。
 - ・健診結果説明会では、理学療法士等が対象者の状況に合わせて、運動の仕方、適切な福祉用具の利用による社会参加への促し等健康教育を実施している。
- 【工夫点】
 - ・参加者が健康課題を「自分事」として捉えられるよう健康教育を実施した。
 - ・他の社会参加につながるよう、様々な通いの場の周知をした。
 - ・フレイル予防に向けた意識変容・行動変容を目指し、内容を工夫した。



高知県宿毛市

事業結果と評価概要（令和4年度結果）

		対象者数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	健康状態不明者対策	アウトカム ① 49人	アウトカム ① 8人	アウトカム ①必要なサービスへつながった状況（健診、医療、介護認定）	アウトカム ①16.3%
		アウトプット ① 49人 ② 40	アウトプット ① 40人 ② 29人	アウトプット ①フレイル状態の把握状況 ②面談等実施状況	アウトプット ①81.6% ②72.5%
ポピュレーションアプローチ	後期高齢者の質問票・アンケート、体力測定・身体計測等の実施	アウトカム ① 41箇所 ② 増加 ③ 165人	アウトカム ① 41箇所 ② 17人 ③ 138人	アウトカム ①自主グループ実施か所数 ②すくもいきいサロン新規登録者数 ③フレイル予防に資する行動への意識を持つ者の割合	アウトカム ①維持 ②増加 ③83.6%
		アウトプット ① 73箇所 ② 230人 ③通年実施	アウトプット ① 20箇所 ② 165人 ③通年実施	アウトプット ①通いの場等で実施か所割合 ②参加人数 ③通いの場以外での実施状況	アウトプット ①27.4% ②71.7% ③通年実施



- ・ハイリスクアプローチでは健康状態不明者の方の健康状態や生活状況が把握でき、計画時は訪問回数等1回のみでの支援であったが、企画調整担当と地域担当でその都度協議し、対象者の状況に応じて必要な保健指導、複数回の支援が実施できた。
- ・ポピュレーションアプローチでは通いの場等に来る対象者像を事前に把握していたため、それぞれの通いの場に合わせた健康教育内容を工夫し実施できた。
- ・今回理学療法士を雇用したことで、対象者の身体機能の状態に応じた必要な指導、環境設定、通いの場や他事業へのつなぎを行うことができた。また介護予防事業、介護保険関連事業等でのフレイル予防の啓発など、理学療法士の持つ専門知識を生かし幅広い範囲で活動できた。
- ・当市所属以外の医療専門職も含め、研修の機会を積極的に提供するほか、随時の協議を行うことにより、事業の必要性や進捗状況を共有できた。

課題・今後の展望

- ハイリスクアプローチの健康状態不明者対策については、地域担当だけでは対象者の状況に応じたつなぎ先等の判断がしにくいという状況があったことから、フローチャート等を作成することで円滑にすすめることができると考えている。
- ポピュレーションアプローチにおけるアウトカムとアウトプットについては、現状の事業ありきの目標設定であったため修正を加えていきたいと考えている。
- 「どんな状況になっても、自分で選んで、社会参加（仕事、趣味、スポーツ、ボランティア、畑など）できる宿毛市を目指す」という共通認識のもと、ポピュレーションアプローチが実施可能な通いの場をより一層広げていきたい。